

# 新しい豊かさを求めて

## 座談会 新知事に抱負を聞く

人間尊重、生活優先を基調とした沢田県政も三期目を迎えました。時代は今、大きく変わろうとしています。そして県民の行政に対する要望も多様化し、いかに県民生活を維持向上させていくかが、大きな課題となっています。

知事は、三期目の県政を担当するにあたり、「新しい豊かさを求めて」という目標を掲げ、県民総参加のもとに、新しい時代にふさわしい、よりよい地域社会づくりを推進してまいりたいと思います。

そこで農業者、企業経営者、勤労者、主婦の代表の方々に、それぞれの立場から新知事に抱負を聞いていただきました。

農業者 卯野木 博美 (三〇)  
八代郡鏡町北新地  
企業経営者 桑 本 保 賢 (三七)  
熊本市白山一丁目  
勤労者 小 堀 徳 広 (三〇)  
熊本市東町  
主婦 坂 口 志 げ 子 (五一)  
玉名郡菊水町江田

熊本市知事 沢 田 一 精

知事は座談会を前に次のように抱負と決意を語りました。

### 新しい豊かさ

現在の地方自治をめざす方向というのは、「人間尊重」「生活優先」という理念があることは、今さら私が申し上げるまでもないことです。

私は、二期目の県政におきまして、みんなの心と力を集め、お互いが住む地域社会というものを、できるだけ理想的な姿にもってまいりたいという「新しいふるさとづくり」の推進を提唱してまいりたいです。

私は、これから一九八〇年代を展望してみますと、この基本的な理念、考え方は決して間違っていないし、むしろこれから三期目の県政をすすめるにあたって、ますますその必要性を痛感しています。

このことを前提として、いろいろ申し上げておきたいと思えます。

私は今回、「新しい豊かさを求めて」という言葉を使いました。

この考え方の基本は、「新しいふるさとづくり」と少しも変わりはないわけですが、私たち人間が求めている「豊か

さ」とは、どういう要素があるだろうか

ということを具体的に示す意味において、そういう言葉を使ったわけです。

そしてそれを私なりに解説しまして、三つのことを申し上げております。

第一は、より美しい生活環境ということです。これは地域によってはアンパランスがありますけれども、昔に比べると、いわゆる美しい生活環境という方向で整備がすすんでいると思えます。

第二は、魅力ある文化的な環境づくりということです。一生涯懸命に働くという生活に追われた状態から、少しでも文化的な生活をしたという意識がでてくるわけで、その意識を先取りして、行政として対応すべき面があるのではなから

うかと思えます。

第三は、温かい心のふれあう環境という事です。これは以前から申し上げていることですが、コミュニティづくりといいますが、地域の連帯意識といいますが、人々の助け合いという意味も含めまして、人と人とのつながりのある地域社会ということになります。

私がいう「新しい豊かさ」というのをわかりやすくいえば、より美しい生活環境で、より魅力ある文化的な生活を、そして隣人との温かい心のふれあう生活と、そういうものが県民すべての願いであらうと私は受けとめるわけです。

以下、そういう意味で、やや具体的に申し上げます。

### 明日の豊かさを築く基盤づくり

やはり「豊かさ」というイメージからすれば、どんな時代になっても産業、経済というものを無視することはできません。そのための基盤整備の推進を図らなくてはならないことですね。高速

自動車道、新幹線鉄道、港湾、国際航空路線等交通通信網の整備、あるいは拠点

となるべき流通施設の建設、あるいは土地基盤の整備等、そういった条件整備を促進するということですね。

さらにはエネルギー対策、水の有効利用という問題も、将来の豊かさを続けていくためにはぜひ必要だと思えます。

### 新しい時代に対応する産業の振興

そして、そういった基礎条件の整備の上になつて活力ある産業の展開をしていきたい。

ご承知のように、農林水産業という第一次産業を本県産業の基本として今日まですすめてきたわけです。これからの第一次産業重視という態度に変化はございません。

それで今後どのように振興を図るかという点、まず一つは、今申し上げた基盤整備、二番目は、技術革新による生産性の向上ということですね。三番目は、生産物の流通機構の整備、あるいは出荷体制の整備です。そのことによって生産物の価格安定ということが非常に大事だろうと思えます。

そして四番目に後継者問題があります。

県立農業大学校をつくったばかりですけど、やはり後継者問題が一つの課題であらうと思えます。

それから中小企業対策、特に地場企業を今後どう維持し、発展させていくかという事です。たとえば金融対策、組織化問題、大店舗対応策、あるいは企業自身としては設備近代化、協同化、経営合

理化等企業努力を要する面もありますし、これも大事なことです。さらに私が産業面で問題になると思うのは雇用の確保ということですね。

若い人たちが、あるいは中高年齢層を対象に雇用の場を広げていく、そのために中小企業対策は重要な役割を果たすだろうと思えます。

もう一つ新たな問題として、今回の三期目の県政で特に組織的に取り組むたいと思っております。一つは、観光産業ということですね。

阿蘇、天草をはじめ県下各地に観光的な素材というものはたくさんあります。しかし、施設の整備が遅れていたり、あるいはPRが下手だとか、受入れ体制が不十分ということで、レジャー時代といわれながらも、観光客数というのは順調な伸びを示していません。

レジャー産業というのは、交通、運輸をはじめ関連分野が非常に多いわけで、中小企業対策にも大きな活がいがあるし、伝統工芸も伸びてくる。そして雇用確保の面でも効果があると思えます。

今後、民間とタイアップした格好で、組織的にやっていきたい。そしてその段